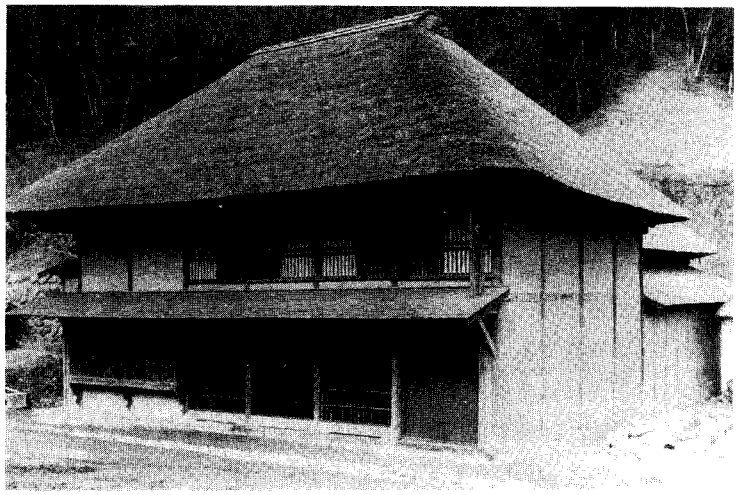
古民家の野外博物館
日本民家園だより

昭和63年度第３号
≪通号第14号≫
発行　63.11.1
川崎市立日本民家園
川崎市多摩区枡形7—1—1
電話(044)922—2180~1
印刷　(資)永　申　社

馬宿（うまやど）「赤浦屋（あかうらや）」、旧鈴木家住宅

- 旧鈴木家住宅
- 神奈川県指定重要文化財
- 寄棟造り茅葺き（T字型）
- 平面積　158.48㎡
- 延面積　183.18㎡
- 旧所在地　福島県福島市松川町字本町１０８
- 昭和45年８月　鈴木長吉氏より川崎市に寄贈
- 昭和45年９月　解体工事着手
- 昭和46年３月　移築復原完了
- 昭和47年11月　県重要文化財に指定される



正　　面

◆宿屋と農業を兼ね，平面がT字型の家

松川は江戸時代「八丁目宿」といわれた宿場でした。この家はその中央，「松川事件で有名となった郵便局の向いに、旧奥州街道をはさんで建っていました。屋号を「赤浦屋」といい、白河や二本松の馬市（ウマイチ）に出す南部駒とこれを連れた馬方の両方を泊める「馬宿」を主な生業としていました。

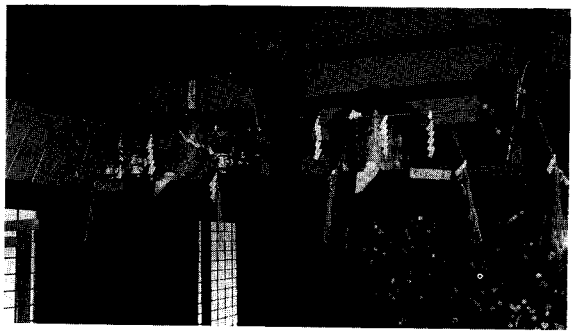
建物は本園で唯一つT字型の平面をしており，前半は出格子窓・上下スライドして開閉する揚戸の構え・板のれん付の庇（ヒサシ）・格子付の中二階・深いセガイ（出桁）造り・「みせ」の間など商家らしさがありますが，後半は普通の農家と同じつくりになっています。左には「ざしき」がありますが，馬方はここに泊ったのではなく，中二階だったそうです。大戸を入った奥の右側が馬が泊ったところで，馬に蹴られて土壁が落ちるのを防ぐため内側に板が張ってあります。またこの家では「ません棒」ではなく，柱と柱の間に縄を張って馬をつないだとのことです。建築年代は口碑・資料・構造様式よりみて19世紀初めごろであろうと推定されます。

◆みどころ

- 前記のように商・農兼業の平面
- 前記のように正面の商業的な各種の構え，なかでも揚戸、それに庇（ヒサシ）の下にある「板のれん」が珍らしい。

注）現地の敷地は裏口より奥行きがあり，各種の倉，小屋がありました。

川崎市域のお正月行事



旧北村家「ひろま」の神棚とマユダンゴ

お正月は一年のはじまりとして，昔から日本人の生活の中で一番大切な行事とされてきました。

新年を迎える準備は，年末のススハライと餅つきから始まります。川崎市の岡上（麻生区）では，12月30日に新しい藁でお飾りとしめ縄をない，神棚には藁で編んだトシガミサマを作って幣束を一本立て，トシガミの餅として一重ねの大きなオスワリ（鏡餅）を供えます。歳神（トシガミ）とは正月に家に迎えて祀る神で，一年の豊作を願う農耕神としての性格と先祖霊としての性格をもつものと考えられています。小倉（幸区）では，元旦から三が日，若水を汲み雑煮を作るのは年男である家の主人の仕事だとされていました。年男とは本来家の祭である正月行事の斎主の役割を担っていました。7日の朝には「七草なずな唐土の鳥が日本のはしを渡らぬ先にストトンストトン」と唱えて菜をきざみ七草粥（ガユ）を作りました。これは作物の害敵である鳥を追って豊作を祝う行事だと伝えられています。14日の午前中にはマユダマを作り，午後にはサイノカミの行事が行われます。マユダマは米の粉で団子を作り繭の形にして柳などの枝に通し，神棚や石臼の穴に差し込んでザシキに飾ります。サイノカミは子供たちが暮れのススハライの竹や古い御札・松飾りなどを集めて燃やす行事です。二子（高津区）では，13日の晩に多摩川の川原に藁と竹で小屋を作り子供たちがその中で遊んで一晩明かし，翌日集めた御札を小屋と一緒に燃やす行事が大正の初期まで行われていました。この火で焼いた餅を食べると風邪をひかないといわれ，また焼いた竹を家に持ち帰り柿の木を「センナリ，ヒャクナリ，センナリ……」と言って叩くと，その年は豊作だといいました。これは成木責め（ナリキゼ）といってマユダマと同様，作物の豊作を願う行事であり，サイノカミは火を燃やして病気や災害をのぞくものとされています。

園の動き

◆ **第2回民家園協議会開催＜8/9＞**

◆ **体験学習 ―郷土玩具作り―　＜8/21＞**　野菜鉄砲・がりがりのプロペラ・ブンブンごまなど，竹細工を中心とする懐しいオモチャ作りを体験していただきました。使い慣れない小刀を持つ子供達の顔は真剣そのもの。きっと夏休みの大切な思い出になったことでしょう。

◆ **体験学習 ―石臼で粉を引く―　＜9/25＞**　今ではなかなか見ることもできなくなった石臼・かまど等を使って，お月見のお団子作りに挑戦。でも，残念ながらお月様は雲の中でした。

◆ **第3回民家園協議会開催　＜10/26＞**

あなたも参加してみませんか

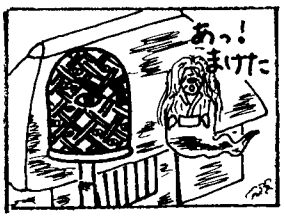
いよいよ今年もあと２ケ月。忙しい季節ですね。心のゆとりを失いそうになったら民家園を訪ねてみてください。昔なつかしい生活を体験できる“お正月行事”を企画しております。

◆ **民具づくり教室 ―しめ縄作り―** ＜12/4,11（各日）２日間＞　来年のお正月には，お宅の玄関に手づくりのしめ縄を飾ってみませんか?!定員，30名。教材費，300円。申込み，11月20日（日）から往復ハガキで先着順。（ハガキ１枚につき１人）４日，11日，両日とも参加できる方。

年中行事の展示

◆ **八日僧（ヨウカゾ）** ＜12月中＞

神奈川県，東京都下などで，12月８日・２月８日のことをいいます。この日は，履物を外に出しておくと厄神様が焼印を押していくとか，メカリ婆さんと呼ばれる一つ目の怪物が来るため，目数の多い目籠を軒先に掲げて追い払うことなどが伝えられています。



◆ **正月準備** ＜12月中＞

ススハライに使う竹を展示します。

◆ **神棚かざり** ＜１月中＞

新しい年を迎えるにあたり，家の内外にはお飾りがつけられます。まず出入口には門松，屋内では大神宮を始めとする神棚の諸神に，しめ縄・榊・松・南天の葉をさしたお神酒（ミキ），そして鏡餅等をお供えします。

◆ **小正月行事** ＜１月中＞

マユダマ・アボ・ヘボ等のお飾りを展示します。

注連縄（しめなわ）

年の初めなどに，神前または神聖な区域などにかけ渡す。シメとは標（シメ）または占（シメ）の意であり，浄・不浄の境を示すものといわれている。七五三縄（シメナワ）・標縄（シメナワ）とも。

新しい稲藁を用いて左綯（ヒダリナイ）に縄をない，七五三の藁しべ・木綿（ユウ）幣・紙四手（シデ カミシデ）などを垂らすこともある。

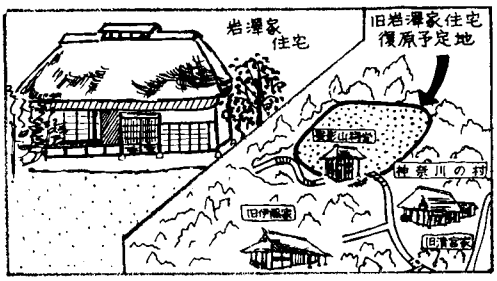
◆ **体験学習 ―マユダンゴ作り―** ＜1/8（日）＞

小正月のお飾りに使うマユダンゴを作っていただきます。赤・白・緑のきれいなお団子です。定員，20組の親子。教材費，１人300円。申込み，12月25日（日）午前９時から電話で先着順。

◆ **旧岩澤家住宅復原予定地造成工事開始** ＜7/15～＞

来年度の復原完成を目ざして、神奈川県指定重要文化財旧岩澤家住宅復原予定地の造成が始まりました。予定地は，神奈川の村・蚕影山祠堂の隣です。

この家の復原によって，民家園の展示建造物は全部で23件となります。



園内の石造物案内(2) －馬頭観音－

◆ **観音信仰**　観音信仰は仏教の渡来とほぼ同時に日本へ伝えられ，「法華経」の普及と共に広まっていったと考えられています。「法華経」のうち「観世音菩薩普門品（カンゼオンボサツフモンボン）」いわゆる「観音経」によると，観音は救われんとする衆生の機に応じて33種の姿に変身して現われるとされ，その名号を唱えるだけで苦難を除くことができると説かれています。きわめて現世利益の性格が強い仏様です。

旧北村家付近の馬頭観音

◆ **馬頭観音**　馬頭観音は観音菩薩の変化像であり，6観音あるいは7観音の1つに数えられています。その像容の特徴は，多くの場合頭上に馬の頭を戴いていること，三眼で牙があり観音には珍しく忿怒相であることなどです。頭上に戴く馬からの連想によって馬の守り神としての信仰と結びつき，徐々に馬の供養や無病息災の祈願をこめて建てられるようになっていきました。過去の人々にとって，馬が家族の一員のように大切な存在だったことの表われでしょう。馬頭観音の建てられる場所は，死馬捨て場，峠や山道などの交通の難所，村はずれの追分，屋敷内などです。全国各地で見受けられますが，特に馬耕が発達した信州，関東から北に多いようです。また時代が下るにつれて像塔ばかりでなく文字塔も多く造られるようになりました。角柱や自然石に「馬頭観音」とか「馬頭観世音」あるいは「馬頭観世音菩薩」と彫られています。民家園では下図のように，文字塔を含む4基の馬頭観音を3ケ所に配置してあります。

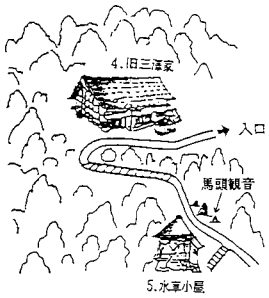
旧清宮家付近の馬頭観音

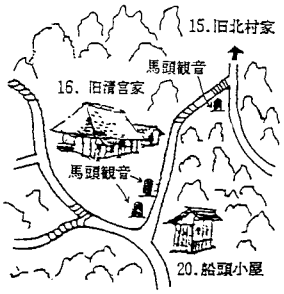
（お詫び）　前号で掲載しました庚申塔（文字塔）の写真は，反転して印刷されておりました。お詫びいたします。

編集後記

『日本民家園だより』14号をお届けします。今年は夏から不順な天候が続き，園内の紅葉が気になるところです。

今回の『民家園だより』の内容は主としてお正月をテーマとしました。徐々に失われていく伝統的なお正月行事に郷愁を感じているのは私だけでしょうか。年末本園では「しめ縄作り教室」を計画しています。ご家族そろってご参加下さい。（S）





民具製作技術保存会活動案内

下記の日程で活動を行います。どうぞご見学下さい。

ワラ細工　11/6，27，12/4，18，1/8，22（旧作田家前庭）
竹細工　11/20，12/18，1/22（旧作田家前庭）
はたおり　11/6，12/4，1/15，29（旧佐々木家）